

# 歓喜講

かんぎこう

10/20  
日曜日  
11:00~

開運招福を祈願する大般若法要を執り行います。

歓喜講はもともと、昭和二十年の大空襲によって被害を受けた待乳山の再興のため、信徒の結束を促し、また新たに聖天様とのお縁を結ぶ機会を増やす為はじめられた行事です。お申込みの方には名入りのお札とお神酒をお授け致します。法要終了後 12 時から住職の法話がございます。参加費は無料です。是非ご参加ください。

【寺務所にて受付中】 講金 **3,000円**

## 朝まいり会

10月1日~7日 午前8時~8時半 会費:500円也

皆様と一緒に「大聖歓喜天礼拝作法」を読誦いたします。毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。

## 写経の会

10月13日(日) 午前10時・午後1時 会費:500円也

お経を一字一字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。始めてご参加される方は開始15分前にお越しください。

## 日曜勤行

10月13日(日) 午前9時 参加費無料

初心の方も気軽に参加いただけるお勤めの会です。

## 合同大般若法要

10月25日(金) 午前11時 法要料:5000円也

皆様と一緒に上げする御礼の法要です。

## 要予約 坐禅の会

10月26日(土) 午前9時半~10時半 参加費:500円也

僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。

足の悪い方は椅子でのご参加もできます。

事前に寺務所にてご予約ください。

## ライブ配信のご案内 (配信QRコード)

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。



待乳山聖天

# いちよう

## 「聖天様の大釜」

本龍院執事 深谷昌広

改めて『江戸名所図会』の待乳山の図を眺めると、面白い物を見つけました。本堂のすぐ前に不思議な物体が描かれています。三本の脚の上に丸い物体。まるでUFOのような形です。北斎の『隅田川両岸一覽』の中の「待乳山の紅葉」でも鳥居をくぐって、すぐの場所に同じものが描かれています。

もうお判りだと思いますが、この正体は大きな「お釜」です。では何のためのお釜でしょうか？当山の一大イベントである大根まつりで、大根を煮るための物でしょうか。残念ながら当山の大根まつりが始まったのは戦後ですので、江戸時代には行っておりません。

昭和43年に当山で発行した『歓喜第十三号』に掲載された網野草翁師の「明治以来の待乳山を偲ぶ」という寄稿にこの大釜について「…太々神楽の折使用の大釜が戦前まで不思議に残されていたが戦時中銅鉄回収の折献納されて今はないけれども…」という記述があります。また江戸時代の『浅草寺志』にも寛文4年に奉納された高さ70cm直径130cmの大々神楽釜の記載があります。

太々神楽とは、一般的には何座もの神楽が続けて行われる大掛かりな神楽のことです。江戸時代の当山の太々神楽がどのようなものだったかは判りませんが、この釜の大きさも考えるととても盛大だったと思います。そしてこの大釜は、太々神楽の中で行われる「湯花」とか「湯立神事」とも呼ばれる作法に使う釜だと思われます。湯立神事とは大釜の湯を笹の葉をまとめたもので振りまき、自分を清め、道場を清め、また参詣者の厄落としなどを祈願する作法です。



現在でも全国各地の主に神社で湯立が行われています。私も出仕させていただいております毎年12月に行われる小田原の秋葉山量覚院さんのお祭りでも湯華作法が行われています。山伏が作法に沿って印を結び九字を切りグツグツ沸き立つ釜の湯を浴びる姿は、何度見てもその迫力に圧倒されます。

今日の当山ではお神楽の奉演が縁日に行われますが、残念ながら湯花は行われておりません。北斎らがわざわざ浮世絵に書き入れた大釜です。いつか待乳山でも復活できればと良いと思います。



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は [ityou@matsuchiya.jp](mailto:ityou@matsuchiya.jp) までメールをお送りください。



用語

コラム

# 「お彼岸」

最近ようやく気温が下がってきて寝苦しい夜が少なくなってきました。「暑さ寒さも彼岸まで」などという言葉があるようにこの時期になると季節の変わり目を感じますね。ですが、お彼岸ってよくよく考えてみるといったい何？という方も多いのではないのでしょうか。今回は「お彼岸」の意味や由来についてお話ししたいと思います。

お彼岸という期間は仏教の影響を受けていながらも、実は他の仏教国では設けられていませんし、この期間にご先祖様を供養するというのも日本独自の風習です。

春、秋、年2回のお彼岸は、お中日の、春分の日、秋分の日を中心に前後3日間ずつ、計7日間からなります。浄土教の信仰では、極楽浄土ははるか西にあると考えられているため、太陽が真東からのぼって真西に沈んでいく春分の日と秋分の日是我々の世界である此岸と、仏様の世界である彼岸が最も近く通じやすくなる日であると考えられてきました。次第に、春分の日と秋分の日、ご先祖様の供養の法要を行えば、ご先祖様だけでなく自分自身もはるか西の極楽浄土へ到達することができ、またご先祖様への思いも最も通じやすくなるのではないかという思想が生まれ、



お彼岸にはご先祖様の供養のためにお墓参りをするという行事が定着していったようです。

余談ではありますが、お彼岸のお供え物「おはぎ」は季節によって名前が変わるそうで、秋のお彼岸で食べるものは秋に花が咲く「萩(はぎ)」から「おはぎ」と呼び、同様に春のお彼岸で食べるものは春に花が咲く「牡丹(ぼたん)」から「ぼたもち」とよばれています。さらに夏と冬にも呼び方があり夏は「夜船(よふね)」冬は「北窓(きたまど)」と呼ぶそうです。

現世利益を祈願する当山にはお彼岸の行事はありませんが、皆様それぞれのご家庭や菩提寺においては御先祖様の供養と日頃の感謝を伝えるお彼岸という日を大切に極楽浄土に思いを馳せるのもよいでしょう。

世話人往来

訃報

元世話人である高松孝裕様が8月27日逝去されました。享年93歳。謹んでお悔やみ申し上げます。

## お知らせ

### 朝まいり会:木下川薬師さんぽ会



参加費: 4,000円

10月6日(日)、朝まいり会終了後に木下川薬師さんぽ会を開催します。朝まいり会員限定になりますので、会員の方は是非ご参加ください。締切は9月30日です。

### 七五三参りのご案内

参加費: 5,000円

当山では十月から十一月を中心に七五三参りをご予約にて承っております。そもそも七五三とは縁起がいいとされる奇数である三歳、五歳、七歳の年に神仏にお参りして、お子様の無病息災を祈願し速やかな成長を願うもので、一般に女の子が三歳と七歳、男の子は五歳(地域によっては男女ともに区別なく三・五・七歳のいずれにも祝うこともあるそうです)にお参りいたします。お参りは一 가족ごとに本堂内陣で行者様から直々にお加持を授けられます。またお子様のお名前が入りましたお守りとお供物をお授け致します。特に土日の法要はご希望の方が多い場合がございますので、お早めに寺務所にてお申し込みください。

## 《ご報告》



### 「子ども会」

8月25日(日)小学生のお子さまを対象に子ども会を開催いたしました。座禅、齋食、お参りなどの修行体験を行い、レクリエーションでは浅草ならではの革製品を使ったストラップの制作をしました。ご助力を賜りました聖天町会役員の皆様ありがとうございました。



### 「灯明講」

8月20日(火) 献灯の儀で御宝前に仏様の智慧のシンボルであるお灯明をお供えし、大般若法要を執行いたしました。

### 「関東大震災回向法要」

9月1日(日)1923年に発生した関東大震災でお亡くなりになられた方のご回向を聖天公園の石碑の前にて執行いたしました。



### 「朝まいり正五九大般若法要」

9月7日(土)朝まいり会の正五九大般若法要を執行、日頃のご加護の感謝をいたしました。最近朝まいり会も参加者が増えました。より大勢で一体となり気持ちのこもった力強いお勤めをすることで心も清らかになります。是非朝まいり会へのご入会を検討してみてください。

## ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

## 祈祷料

別座祈祷 壹万二千元(一週間)  
浴油祈祷 四千元(一週間)  
華水供 六百元(一日)

## 法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

### 百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

### 大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

### 自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

